

昭和							年 月 日	略 歴
18	18	17	17	17	16	16		
6	6	3	1	1	7	7		
30							13	動員下令。 久留米市第五六師団において臨時編成完結。爾後広島に位置す。 大陸指に基く船舶輸送司令官の命令により、第一揚陸団長指揮の下に第一六軍司令官の指揮下に入らしめらる。 内地出發。大東亜戦争参加のため征途につく。 「ジャバ」の「パタビヤ」方面「バンナム」湾に上陸。爾后「パタビヤ」方面に行動す。 「マニラ」に到着。 「マニラ」において復帰し、昭和一八年軍令陸甲第三四号により第八揚陸隊に編入せらる。
中隊長 中尉 中野 伍郎								
							摘要	

建築勤務第六五中隊
(既第九七四五部隊)

略歴

0052

							昭和	
							年	月
							日	略
18	18	17	17	17	16	16	9	15
6	6	2	1	1	9	15	略	略
30	15			1	18		歴	歴
<p>昭南にて復帰し昭和一八年軍令陸甲第三四号にて第十揚陸隊に編入せらる。 昭南に到る。 「パレンバン」上陸。爾後同地に位置す。 大阪乗船出発。大東亜戦争「スマトラ」上陸作戦参加のため征途につく。 令官の指揮下に入らしめらる。 大陸指に基く船舶輸送司令官の命令により第一揚陸隊長指揮の下に第一六軍司 置す。 大陸命第五四四号により船舶輸送司令官の隷下に入らしめらる。爾後大阪に位 置す。 旭川第七師団にて臨時編成完結。</p>							<p>臨時編成下令。 旭川第七師団にて臨時編成完結。 大陸命第五四四号により船舶輸送司令官の隷下に入らしめらる。爾後大阪に位 置す。</p>	
<p>中隊長 中尉 成平作吉</p>							<p>摘要</p>	

建築勤務第六七中隊
(暁第九二六七部隊)

略歴

0053

至自											昭	年 月 日	水上勤務第三五中隊 (暎第四六三八部隊)	略 歴	略 歴		
1716	17	17	17	17	17	17	17	17	16	16						昭和一九年軍令陸甲第一四一号により大阪に於て編成完結。 大阪港出発。第一五軍司令官の隷下に入る。 第五碇泊場司令官の指揮下に入る。 タイ国盤谷港上陸。爾後盤谷駐屯。 盤谷出発。 タイ国、ビルマ国境通過。 「モールメン」着。 「モールメン」出発。 「ラングーン」着、爾後ラングーンに於て水上輸送勤務、第三八碇泊場司令官の指揮下に入る。 南部緬甸作戦に参加。	略 歴
312	3	3	3	3	2	1	1	12	11								
1021	12	10	9	3	13	13	12	21	27								
												略	歴	略	歴		
												摘要					

0054

至自	至自			至自	至自	至自				至自	至自	昭
1919	1919	19	19	1918	1818	1817	17	17	17	1717	1717	17
107	73	7	7	311	105	46	11	11	10	108	63	5
3115	1425	15	10	241	311	306	26	6	11	1028	711	25
<p>第三八碓泊場司令官の指揮下を離れ軍直轄に復帰。 北部緬甸作戦参加。 残敵掃蕩並びに警備。 「ラングーン」出発。第一五司令官の隷下を離れ第一七軍司令官の隷下に入る。 「ニューブリテン」島「ラバウル」港上陸。 第一七軍司令官の隷下を離れ、第八方面軍司令官の隷下に入る。 南太平洋作戦に参加。 第一次「ビスマルク」作戦に参加。 第二次「ビスマルク」作戦に参加 軍令陸甲第六七号に依り臨時編成並びに復帰下令。 臨時編成並びに復帰完結。 混成第五連隊に編入。 ラバウル防衛並びに船舶作戦に参加。 第三次「ビスマルク」作戦に参加。</p>												

0055

至自		至自						昭	年 月 日	水上勤務第三七中隊 略 歴	(暁第三〇二六部隊)
1918	1818	18		18	18	17	16	16			
312	124	4		2	1	9	8	8			
		28		3		29		下旬	上旬	略	歴
従事		ニューギニヤ島「ハンサ」に上陸。		パラオに上陸揚塔作業に従事。		釜山港出発。		虎林出発。			
		「ハンサ」に於て第四九碇泊場司令官の指揮下に入らしめられ揚塔作業に従事		「ウセワク」に於いて第四九碇泊場司令官の指揮下に入らしめられ揚陸作業に						摘要	

0057

	至自
	1919
	64
<p>部隊長</p> <p>中尉 高橋 宜一</p>	<p>主力は「サルミ」に転進全滅状態となる</p> <p>一部「ウエワク」残留者（数名）は軍司令部に転属す。</p>

0058

至自		昭								年月日	水上勤務第三九中隊 (既第五七二五部隊)
1616	16	16	16	16	16	16	16	16	16		
1210	10	10	10	9	7	7	7	7	7		
3	9	9	8	3	29	25	24	15	13	略	略 略 歴
<p>あ号作戦参加のため高雄駐留。 高雄上陸。 同日第五碇泊場司令官の指揮下に入る。 第一揚陸団長の指揮下に入る。 宇品出帆。 まで宇品に在りて輸送業務に従事。 同日船舶輸送司令部官の隷下に入る。 広島到着。 三島出発。 三島に於て編成完結(令甲第六七号) 動員下令。</p>											
										歴	
										摘要	

0059

至自												
1818	18	17	17	17	17		17	17	17	17	16	16
105	4	9	9	5	5		3	2	1	1	12	12
311	30	20	3	30	21		1	5	13	10	22	4
<p>比島上陸作戦参加のため高雄出発。</p> <p>比島「リングアエン」湾上陸戦斗に参加。</p> <p>同日上陸。</p> <p>次期作戦準備のため「リングアエン」湾出発。</p> <p>高雄上陸。</p> <p>爪哇島上陸作戦参加のため高雄港出発。</p> <p>爪哇島「バンタム」湾上陸戦斗に参加。</p> <p>同日上陸。</p> <p>「バタビヤ」出発。</p> <p>南比島「ダバオ」上陸、同日より次期作戦準備のため「ダバオ」に駐留。</p> <p>作戦参加のため「ダバオ」出発。</p> <p>「ニューブリテン」島「ラバウル」上陸。</p> <p>まで「ソロモン」諸島及西南太平洋船舶作戦参加。</p> <p>第二次「ソロモン」並に第一次「ビスマルク」諸島作戦参加。</p>												

0060

昭 16									年 月 日	水上勤務第四〇中隊 略歴 (暁第五七二六部隊)
6	5	5	10	10	10	7	7	7		
2	30	28	12	10	1	25	24	23	略	歴
搭作業に従事。 「ダバオ」上陸、同日第三五旅団に配属、爾後「ダバオ」港に於ける軍需品場 比島「ダバオ」着。 「バラオ」発。 於ける軍需品揚搭作業に従事。 「バラオ」島着。 「バラオ」島「マラカル」上陸同日第四二碇泊場司令部は配属「バラオ」港に 大阪港発。 大阪着同日第三七碇泊場司令部に配属。 三島発。 軍令陸甲第四二号に依り三島に於て編成完結。									摘要	

0062

昭 17	昭 18	昭 18	昭 18	昭 18	昭 18	昭 18	昭 18	昭 18	昭 18	昭 18	昭 18
8	8	8	6	6	5	12	11	11	8	8	8
10	14	16	12	3	1	1	29	21	16	14	10
「ダバオ」発。	「バラオ」島着。	「バラオ」島「マルカル」上陸第一船舶輸送司令部「バラオ」支部長の区署を受け「バラオ」港に於ける軍需品揚搭作業に従事。	「バラオ」発。	「ニューブリンテン」島「ラバウル」着。	「ラバウル」上陸。西南太平洋船舶作戦参加。	第一次「ビスマルク」船舶作戦に参加。	「ラバウル」発。	「バラオ」島着。	第一次「ビスマルク」第二次「ニューギニア」船舶作戦参加及び「バラオ」港に於ける戦闘輸送業務に従事。	第三次「ニューギニア」船舶作戦参加及び「バラオ」港に於ける戦闘輸送業務に従事。	

0063

		20	20	20	20	20	20	19	19	19	至自
		12	12	12	9	7	1	9	7	7	3
		30	27	17	2	1	1	6	25	24	25
<p>部隊長</p> <p>中尉 大井博郎</p>		復員	内地港湾着。	「パラオ」発。	「パラオ」に於て終戦。	中部太平洋第四次「パラオ」作戦に参加。	中部太平洋第三次「パラオ」作戦に参加。	中部太平洋第二次「パラオ」作戦に参加。	中部太平洋第一次「パラオ」作戦参加。	比島濠北「ユーギニヤ」作戦輸送に従事。	

0064

					昭	年
	18	18	16	16	16	16
	6	6	9	9	9	9
	30				18	15
部隊長 中尉 高木清藏	<p>軍令陸甲第三四号により「マニラ」に於て現地復帰し第八揚陸隊に編入せしめらる。</p> <p>比島「マニラ」に転進す。</p> <p>爾後同地に在りて揚塔作業に従事す。</p> <p>仏印西貢着。</p> <p>宇品出発。</p> <p>大陸命第五四四号により船舶司令官の隷下に入らしめらる。</p> <p>広島市留守第五師団に於て編成完結。</p> <p>臨時編成下令。</p>					略
						歴
						摘要

水上勤務第四六中隊
(暁第五一二七部隊)
略歴

0065

昭									年月日	水上勤務第四七中隊 (暎第五一二八部隊)
17	17	16	16	16	16	16	16	16		
7	6	12	11	11	9	9	9	9		
		8		20			18	15	略	略歴
<p>臨時編成下令。 大陸命第五四四号により船舶輸送司令官の隷下に入らしめらる。 内地出發。 海南島海口に到る。 大陸指第一〇二一号に基く船舶輸送司令官の命令により第二場陸団長の指揮の下に第二五軍司令官の指揮下に入らしめらる。 海口乗船出發、馬來上陸のため征途につく。 馬來半島「コタバル」に上陸。 爾後馬來半島に行動す。 第一場陸団長の指揮の下に第一七軍司令官の指揮下に入らしめらる。 「ダバオ」に集結し「ラバウル」に到る。</p>										
										摘要

0066

	18	18
	5	5
	20	
<p>中隊長 中尉 藤田満徳</p>	<p>「マニラ」に集結す。 「マニラ」において復帰し、昭和一八年軍令陸甲第二八号により海上輸送第四大隊に改編せらる。</p>	

0067

昭							年 月 日	水上勤務第五〇中隊 (既第六四三五部隊)	略 歴
17	16	16	16	16	16	16			
12	12	9	9	9	9	7			
25							20	18	13
<p>中隊長 中尉 西内清吉</p> <p>昭南において復帰し、昭和一七年軍令陸甲第一〇〇号により第七揚陸隊に編入せらる。</p> <p>昭南に到る。</p> <p>同地において大東亜戦争の船舶輸送業務に任ず。</p> <p>海南島海口に到る。</p> <p>内地出発。</p> <p>善通寺第五五師団において臨時編成完結。</p> <p>大陸命第五四四号により船舶輸送司令官の隷下に入らしめらる。</p> <p>臨時編成下令。</p>							略	歴	
									摘要

0069

									水上勤務第五一中隊 (暁第六四三六部隊)	
									略歴	
昭	年	月	日						略	歴
16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	臨時編成下令。
9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	大陸命第五四四号により船舶輸送司令官の隷下に入らしめらる。
18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	松山第五五師団において編成完結。
										内地出発。
										広東に到る。
										大陸指第一〇二一号に基く船舶輸送司令官の命令により第二揚陸団長指揮の下に第二五軍司令官の隷下に入らしめらる。
										広東乗船出発。馬來上陸の為の征途につく。
										馬來半島シンゴラ上陸。
										爾後、馬來半島方面に行動す。
										宇品に帰還す。
										摘要

0070

	18
	5
	15
<p style="text-align: center;">中隊長 野村英通</p>	<p>字品において復帰し、昭和一八年軍令陸甲第三四号により海上輸送第二大隊に改編せらる。</p>

0071

17	16	16	16	16	16	16	16	16	昭	水上勤務第五二中隊 (睨第六四三七部隊)		
4	12	11	11	9	9	9	9	9	年月日			
	8		20				18	15	略			
臨時編成下令。 大陸命第五四四号により船舶輸送司令官の隷下に入らしめらる。 松山第五師団にて臨時編成完結。 内地出発。 広東に到る。 大陸指第一〇二一号に基く船舶司令官の命令により第二揚陸団長指揮の下に第二五軍司令官の指揮下に入らしめらる。 広東出発、馬米上陸のための征途につく。 馬米半島「バタニー」上陸。 爾後馬米半島方面に行動す。 第一五軍司令官の指揮下に入り「ラングーン」方面に行動す。										略	略	歴
										摘要		

0072

	18
	6
	30
<p>中隊長 中尉 大塚 義光</p> <p>「ラングーン」に於て復帰し、昭和一八年軍令陸甲第三四号により海上輸送第三大隊に改編せらる。</p>	

0073

										昭 16	年 月 日	水上勤務第五九中隊 略 歴 略 歴
18	18	18	18	17	17	16	16	16	16			
11	9	2	1	3	1	10	10	中旬	中旬	9	23	略 歴
										編成定員五一名。		
										釜山発台湾經由。		略 歴
										海南島着。爾後海南島に於いて訓練、実施。		
										ジャワ島「バタビヤ」に移駐。		略 歴
										主力は「バタビヤ」に一小隊は「スラバヤ」に在りて碇泊場業務に従事。		
										全員「スラバヤ」発「バラオ」經由。		略 歴
										「ウエワク」着。第四船舶輸送司令官の指揮下に在りて小舟艇による輸送作戦に参加。		
										「ウエワク」に第一次、補充二一〇名（半数鮮兵）到着。		略 歴
										「ウエワク」に第二次補充一〇〇名（半数鮮兵）到着。		
										摘要		略 歴

0074

								昭
20	19	19	19	19	19	19	19	19
5	12	9	6	5		4	4	4
						22	20	
<p>第十八軍の指揮下に入る。</p> <p>「ホーランヂヤ」に向け転進開始。</p> <p>米軍「ホーランヂヤ」「アイタベ」に上陸し転進不能となり先遣隊及第一小隊の主力約一四〇名は夫々「アイタベ」「ホーランヂヤ」附近を通過中生死不明となる。</p> <p>主力は「ブーツ」に集結し第一船舶団長の指揮下に在りて「ウエワク」より軍需品の揚陸及担送に従事。</p> <p>主力は「バラム」に移駐し「ウエワク」より軍需品の揚陸及担送に従事。</p> <p>「ブーツ」及び「バラム」に於て第四中一師団長の指揮下に在りて軍需品の担送、揚陸に従事。</p> <p>「バラム」発「ソナム」「ロワン」「リオ」と転進し各地に於て戦斗及担送、揚搭作業に従事。</p> <p>全員「リオ」発「セビツク」(アングルマン)に転進し歩兵第二三七連隊指揮下に在りて邀撃作戦参加。</p>								

0075

	昭	20	20	21	21
	7	9	10	1	1
		2		16	7
	「セピツク」出発「チャイゴール」に前進し戦斗準備。				
	「チャイゴール」に於て終戦。				
	「ムシユ」島に集結。				
	「ムシユ」島出発。				
	浦賀上陸。				

0076

年月日	昭 20 20 20			
略	9 4 4			
略	2 5			
略	軍令陸甲三七号により羅南に於て編成完結。 第一船舶輸送隊長の指揮下に入り酒田に位置す。 酒田において終戦。			
摘要				

水上勤務第七一中隊
(暁第一二七五三部隊)

略
歴

0077

<p>昭 20 20 20</p>	<p>年</p>	<p>水上勤務第七二中隊 (睨第一二七五四部隊)</p>
<p>9 4 4</p>	<p>月</p>	
<p>2 5</p>	<p>日</p>	
<p>軍令陸甲第三七号により朝鮮に於て編成完結。 第一船舶輸送隊長の指揮下に入り、伏木に位置す。 伏木において終戦。</p>	<p>略 歴</p>	<p>略 歴</p>
	<p>摘 要</p>	

0078

昭 20	20	20	年 月 日	水上勤務第七四中队 略 歴 略 歴 摘要
9	4	4	略 歴	
2	5	5	摘要	
<p>軍令陸甲第三七号により朝鮮釜山に於て臨時編成完結。 第一船舶輸送隊長の指揮下に入り第一船舶輸送司令部南鮮支部に配属せらる。 釜山に位置す。 釜山において終戦。</p>				

0080

昭 20	20	20	昭 20	年 月 日	水上勤務第七五中隊 (既第一二七五七部隊) 略 略 歴
9	4	4	4		
2	21	19	5		
中隊長 中尉 佐藤勇治					
釜山に於て終戦。 釜山着。 羅南出発。					
					歴
					摘要

0081

年	昭 20	
月	3	
日	3	
略 歴	<p>朝鮮において編成完結。 第一船舶輸送隊長の指揮下に入らしめられ北鮮支部に配属せらる。 元山において終戦。</p>	<p>中隊長 井口種明</p>
摘要		

十七中隊 福

水上勤務第七八中隊
(暁第一二七八七部隊)
略歴

0084

			昭	年 月 日	水上勤務第七九中隊 （暁第一二七八八部隊）	略 歴
	20	20	20			
	8	4	4			
	15		5			
	元山に於て終戦	第一船舶輸送隊長の指揮下に入らしめられ南鮮支部に配属せらる。	朝鮮に於て臨時編成完結			
						摘要

0085

至自至自至自										至自至自			昭	年 月 日	水上勤務第一〇一中隊 （暁第二九五七部隊）				
18	17	17	17	17	17	16	16	16	16	16	16	16	15			略	歴	略	歴
1	12	12	9	8	4	2	1	12	10	9	11	8	7						
12	18	17	11	10	30	1	31	12	31	26	8	5	15	14					
<p>大別山作戦参加。</p> <p>武漢地区に於ける警備揚搭作業に従事。</p> <p>浙贛作戦参加。</p> <p>岳州発。同月四日漢口着。</p> <p>第二次長沙作戦参加。</p> <p>長沙作戦参加。</p> <p>漢口発。同日岳州着。</p> <p>編制改正完結。</p> <p>軍令陸甲第四二号に依り船舶関係諸部隊臨時編成（編制改正）^成。下令。</p> <p>を基幹とし漢口に於て編成完結。警備及揚搭作戦に従事す。</p>														略	歴	略	歴		
														摘要					

0086

153〇2

部隊長

中尉

沢井

甲子太郎

0088

18	18	18	16	昭 15	年 月 日	水上勤務第一〇五中隊 (暁第六一四一部隊)
7	5	5	1	12		
9		20		14		
小梅港出発 南支那黄埔出発。 大陸命第七八五号により北方船舶隊の編成に編入せらる。 爾後同地に位置す 南支那黄埔に到る。 しめらる。 大陸命第四七四号(昭一五、一一、三〇)により船舶輸送司令官の隷下に入ら				略		略 歴 略 歴
				歴		
				摘要		

二十中斷 福

0089

十九中折 偏

	至自	昭
	20 1919	18
	9 113	7
	2 末24	12
<p>幌筵島柏原港着</p> <p>柏原に在りて機橋建設及び局地輸送（幌筵―占守）軍需品の揚陸作業実施。</p> <p>一部大西軍曹以下七〇名温彌古丹島に派遣 揚塔作業に従事せる後柏原に復帰。</p> <p>幌筵島柏原に於て終戦入ソす。</p> <p>部隊長</p> <p>大尉 野路井 晋</p>		

0090

0090

昭											年 月 日	特設水上勤務第二三中隊 (暎一〇三九五部隊)	略 歴	略 歴	摘要
18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18					
10	10	10	8	5	5	5	5	4	4	4					
26	21	20	24	23	6	3	1	30	27	19		軍令陸甲第三一号に依りマライ「昭南」に於いて編成完結。 ジャワ派遣のため昭南港出発。 スマトラ「パレンバン」港寄港。 「パレンバン」港出発。 ジャカルタ上陸。 西部ジャワ「バンドン」市着、附近の警備。 「グリセ」飛行場設定「スラバヤ」警備のため「バンドン」出発。 「スラバヤ」着。 第一九軍司令部官の指揮下に入る。 「スラバヤ」港出発。 「アンボン」上陸。			

0091

至自												
20	2020	20	20	20	20	18		18	18	18	18	18
9	8 1	6	5	1	1	12		11	11	11	11	10
2	14 1	20	29	15	14	1		18	18	16	16	26
<p>第五師団長の指揮下に入る。</p> <p>「アンボン」港出発「タニンバル」諸島に向う。</p> <p>離島防衛団長の指揮下に入る。</p> <p>濠北「タニンバル」諸島「セラム」島「アダウト」上陸。</p> <p>「タニンバル」防衛隊長の指揮下に入る。同日より「セラム」島に在りて防衛並びに輸送集積、築城作業に従事。</p> <p>「セラム」島「レミアン」上陸防衛</p> <p>「セラム」島出発。</p> <p>「タニンバル」諸島「ヤムデナ」島着、爾後同島に於て防衛。</p> <p>軍令陸甲第八九号により現地復帰下令。</p> <p>復帰完結。</p> <p>歩兵第四二連隊へ五七名、第五師団第二野戦、病院へ一名転属</p> <p>濠北地区防衛第一号作戦参加</p> <p>同地区に於て終戦</p>												

0092

155~2

	21	21	21	21	20	20
	6	5	1	1	12	12
	10	30	18	17	20	8
<p>部隊長</p> <p>大尉 江島理平</p>	田辺港上陸 復員	「トアール」出発	「ケイ」諸島「トアール」上陸	タニンバル諸島「サムラキ」港出発	濠北「ケイズラ」島へ集結、自活作業	濠北「テソケイ」島へ集結、自活作業

0093

昭										年 月 日	略 歴
20	20	18	18	18	18	18	18	18	18		
9	6	7	7	6	6	5	5	4	3		
2	20	24	20	22	7	27	26	19	10	日	略
<p>「ケイ」諸島「ヅラ」に於て終戦。</p> <p>現地復帰。</p> <p>濠北「ケイ」諸島「ヅラ」上陸。警備並に作戦準備。</p> <p>「セラム」島「アンボン」港出発。</p> <p>警備並に次期作戦準備。</p> <p>「セラム」島「アンボン」港上陸。同日第五師団長の指揮下に入る。同地附近の</p> <p>「ジャワ」島「スラバヤ」到着。</p> <p>「ジャワ」島「スラバヤ」出発。</p> <p>「ジャワ」島「ジャカルタ」出発。</p> <p>「ジャワ」島「ジャカルタ」出発。</p> <p>「ジャワ」島「スラバヤ」出発。</p> <p>軍令陸甲第三八〇号に依り編成下令。</p>										<p>特設水上勤務第二四中隊</p> <p>(暁第一〇三九六部隊)</p> <p>略歴</p>	摘要

0094

											昭	自	至																			
											18	18	18																			
											5	6	11	11	18	18	19	19	19	20	20	20	20	21	年							
											日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	月								
											31	1	6	7	26	30	1	14	20	28	2	17	日									
											特設水上勤務第五一中隊 (既第一〇四四九部隊) 略 歴																					
											「ジャワ」島「マラン」市に於て編成完結。 「ジャワ」島「マラン」市に於て待機、兵補の訓練実施。 「ジャワ」島「スラバヤ」港出発。「アンボン」「ハルマヘラ」に寄港。 西部「ニューギニヤ」島「マノクワリ」上陸。 引き続き同地に在り。 「マノクワリ」出発。「ペラウ」地峡へ転進。 「ヤカチ」到着。 軍令陸甲第八九号に依り現地復帰し第一四師団海上輸送隊に充用さる。 「ペラウ」地峡「ヤカチ」出発。同日「バボ」到着。 西部「ニューギニヤ」「バボ」に於て終戦。 「バボ」出発「ロカス」「ソロン」寄港。																					
											摘 要																					

0096

	昭	21	21	21	21
		6	6	6	2
		14	2	1	11
部隊長 少佐 大滝猪次郎		和歌山泉田辺港上陸。復員。	「バレバレ」港出発。	「マリンプン」出発。同日「バレバレ」港到着。	軍令により独立有線第九九中隊に転属。
					南部「セレベス」島「バレバレ」上陸。同日「マリンプン」到着。

0097

								昭	年 月 日	特設水上勤務第五二中队 略歴	
18	18	18	18	18	18	18	18	5			ジャワ島「マラン」市に於て独守歩第五三及び第五五大隊の人員を以て編成完結。
11	11	11	11	11	11	11	11	31			
29	27	24	23	20	19	17	16		「スラバヤ」出発。		
									「セレベス」島「マカツサル」港寄港。		
									「マカツサル」港出発。		
									「マンボン」寄港。		
									「マンボン」出発。		
									「ハルマヘラ」島「ワシレ」湾着。		
									上陸。		
									摘要		

		至 自				至 自				至 自		
21	21	20	20	20	20	20	20	20	19	19	18	
6	5	9	8	6	6	3	5	3	4	8	4	12
5	25	2	14	21	20	2	29	1	23	25	30	1
部隊長		<p>勢第一号作戦参加。</p> <p>軍令陸甲第一〇三号第二九七次復帰要領により復帰完結。第一野戦根拠地隊司令部に編入。</p> <p>輝第二号作戦参加。</p> <p>軍令陸甲第八九号に依り独歩第七七三大隊に編入。</p> <p>輝第三号作戦に参加。</p> <p>勢第三号作戦参加。</p> <p>「ハルマヘラ」島に於て終戦。</p> <p>「ハルマヘラ」島出発。</p> <p>和歌山県田辺港上陸。復員。</p>										
大尉 豊												
徳重郎												

0099

						昭	年 月 日	特設水上勤務第五三中隊 略歴 (既第一〇四五一部隊)
19	18	18	18	18	18	18		
2	12	12	11	9	9	5		
5	7	1	7	16	1	30	略	
<p>馬来半島「クアラランブル」に於て編成完結。 南方軍の戦闘序列に編入され同日第三船舶輸送司令部馬来支部長の指揮下に入る。 一ケ小隊は馬来半島「ブライ」出張所長、一ケ小隊は「スマトラ」「レンガノト」出張所長の指揮下に入る。 中隊は第一九軍の隷下に入り昭南出発「アンボイナ」に向う。 第二軍の隷下に入り「アンボイナ」出発「ソロン」に向う。 同日より勢第二号第一期作戦に参加す。 西部「ニューギニヤ」「ソロン」に上陸と同時に「ソロン」地区隊司令官の指揮下に入る。 第二野戦根拠地隊に配属さる。</p>							略	歴
							摘要	

0100

				昭 19
		20	20	19
		9	6	12
		2	20	31
				1
<p>勢第二号第二期作戦に参加す。「ソロン」防衛隊長の指揮下に在りて道録構築並びに軍需品の揚陸搭奥地分散作業に従事す。</p> <p>第三五師団長の指揮下に入り「龜」地区北岸作戦に参加す。</p> <p>軍令陸甲第六九号に依り現地復帰。</p> <p>西部「ニューギニア」「ソロン」に於て終戦。</p> <p>停戦に伴い戦斗行動を停止し生存者は所在の地点に於て武装解除された後收容所に入る。</p>				
<p>部隊長</p> <p>大尉 松本 司</p>				

0101